

# 第199回 ヘルスケア研修会 「就業形態多様化時代の健康管理」

## 派遣社員の健康管理をどうすすめるか その現状と今後の課題をめぐってパネル

近年、就業形態の多様化にともない、正社員やパートタイム、契約社員、派遣社員など、さまざまな雇用形態の労働者が混在する職場が増加している。職場の健康管理についても、こうした新しい雇用形態時代に対応した健康づくり支援が求められている。このため、健康管理コンサルタントセンターと本会が主催する第199回ヘルスケア研修会では、「就業形態多様化時代の健康管理 新しい産業看護職の役割・健康の自己管理を支援する」をテーマに、パネルディスカッションを開催した。

パネルディスカッションでは、まず司会の飯島美世子(写真)が次のように述べた。「今回のパネルでは、とくに派遣という就業形態に着目し、健康管理上の課題や問題点の共通認識を図り、新しい雇用形態に即した健康管理のあり方を模索したい。」

これを受けて、大原博(写真)がアビリティ専務取締役・日本人材派遣協会副理事長が就労形態の多様化と労働者派遣事業の現状について報告を行った。

大原副理事長は、昨今の就労形態の多様化には産業構造や労働者の変化に加え、企業側のコストの最小化という背景があると述べ、「非正規雇用の増加が求められる」と強調した。

また、三澤真理子(写真)副理事長は、産業看護職としての豊富な経験をもちに報告を行った。三澤所長は、雇用形態別の健康管理の現状や問題点、課題などを示し、

「多様な就業形態の労働者に対して一様に健康管理を行うことは難しい。業務や、安全配慮義務との関連性の有無などにより、関わりを程度を考慮し、一定の根拠のある対応をしていくことが重要である」とした。

その後の総合討論では、会場での活発な質疑応答や議論が展開された(写真)。

続いて、パナソニック東京管理室衛生管理者の雨宮央氏が、派遣元立場から派遣社員の健康管理の実際を報告した。

雨宮氏は、派遣社員に対する健康診断の流れや事後指導の取組みを紹介したうえで、「健康に対する意識をいかに高めるかが課題である」と述べ、「派遣社員が自己管理できるような健康相談や健康教育を行い、バックアップしていくことが求められる」と強調した。

また、三澤真理子副理事長は、産業看護職としての豊富な経験をもちに報告を行った。三澤所長は、雇用形態別の健康管理の現状や問題点、課題などを示し、

## 聴覚障害者のための 胃X線検診車を導入

### 本会

聴覚に障害のある人や、高齢で聞こえが悪くなった人が医療サービスを受けようとするとき、さまざまな困難がある。とくに胃のX線検査は、受診者から離れた場所から放射線技師が体位の向きを変える指示を出すので、その指示が聞こえないために検査を受けずにいる人が多い。

そこで、昭和大学衛生学教室と日立製作所が聴覚障害者向けの胃X線検査システムを共同開発した。システムには、手話アニメーションのソフト

が組み込まれていて、放射線技師が専用パネルを操作して指示を出す。受診者の顔の前と左右の3面に置かれたモニターに、体位の向きを指示する文字と手話とイラストが表示される。

本会では03年11月、東京都中途失聴・難聴者連盟に協力してこのシステムを導入した。検診車による聴覚障害者の胃検診を実施した(本紙第371号既報)。これが大変好評だったことから、聴覚障害者向け胃検診車の導入を検討し

てきたが、今回、日本財団から1500万円の助成を受けてこの検診車(文字・手話表示機能付検診車)を2台を購入した。

現在、全国には聴覚障害者は約30万人、軽度の難聴者も含めると数百万人にのぼると推定され、その約1割が東京都に在住・在勤している。そうした人たちに胃検診受診の機会を広げることができると、本会関係者は語っている。

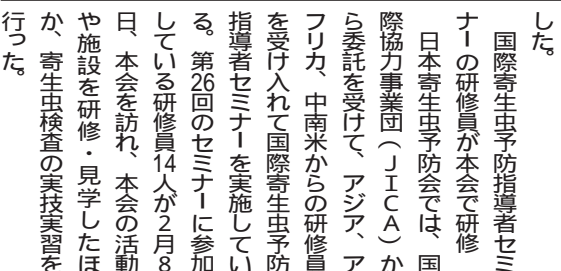
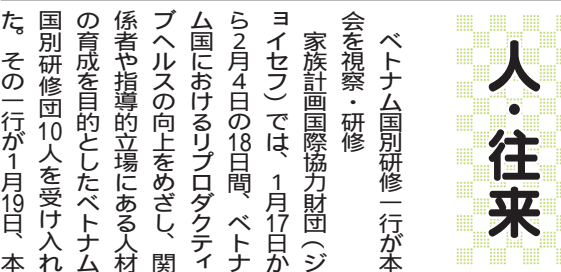
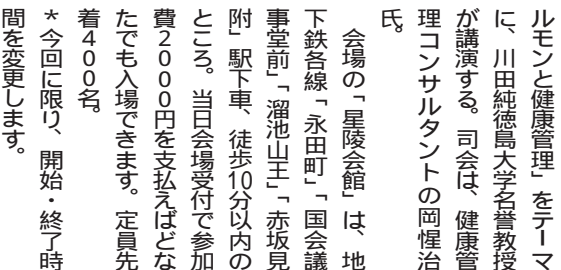
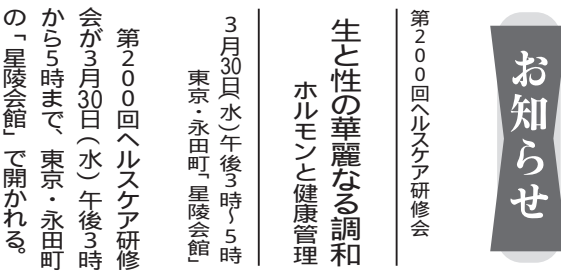
「生と性の華麗なる調和ホルモンと健康管理」と題して、川田純徳島大学名誉教授が講演する。司会は、健康管理コンサルタントの岡塚治氏。

会場の「星陵会館」は、地下鉄各線「永田町」国会議事堂前、「溜池山王」赤坂見附駅下車、徒歩10分以内のところ。当日会場受付で参加費2000円を支払えば、どなたでも入場できます。定員先着400名。

ベトナム国別研修一行が本会を視察・研修。家族計画国際協力財団(ジヨイセフ)では、1月17日から2月4日の18日間、ベトナム国におけるリプロダクティブヘルスの向上をめざし、関係者や指導の立場にある人材の育成を目的としたベトナム国別研修団10人を受け入れた。その一行が1月19日、本

会を訪れ、本会の事業を研修した。国際寄生虫予防指導者セミナーの研修員が本会で研修。日本寄生虫予防会では、国際協力事業団(JICA)から委託を受けて、アジア、アフリカ、中南米からの研修員を受け入れて国際寄生虫予防指導者セミナーを実施している。第26回のセミナーに参加している研修員14人が2月8日、本会を訪れ、本会の活動や施設を研修・見学したほか、寄生虫検査の実技実習を行った。

「生と性の華麗なる調和ホルモンと健康管理」をテーマに、川田純徳島大学名誉教授が講演する。司会は、健康管理コンサルタントの岡塚治氏。



## お知らせ

第200回ヘルスケア研修会  
生と性の華麗なる調和  
ホルモンと健康管理  
3月30日(水)午後3時~5時  
東京・永田町「星陵会館」

## 人・往来

ベトナム国別研修一行が本会を視察・研修  
家族計画国際協力財団(ジヨイセフ)では、1月17日から2月4日の18日間、ベトナム国におけるリプロダクティブヘルスの向上をめざし、関係者や指導の立場にある人材の育成を目的としたベトナム国別研修団10人を受け入れた。その一行が1月19日、本

国際寄生虫予防指導者セミナーの研修員が本会で研修  
日本寄生虫予防会では、国際協力事業団(JICA)から委託を受けて、アジア、アフリカ、中南米からの研修員を受け入れて国際寄生虫予防指導者セミナーを実施している。第26回のセミナーに参加している研修員14人が2月8日、本会を訪れ、本会の活動や施設を研修・見学したほか、寄生虫検査の実技実習を行った。

会を訪れ、本会の事業を研修した。国際寄生虫予防指導者セミナーの研修員が本会で研修。日本寄生虫予防会では、国際協力事業団(JICA)から委託を受けて、アジア、アフリカ、中南米からの研修員を受け入れて国際寄生虫予防指導者セミナーを実施している。第26回のセミナーに参加している研修員14人が2月8日、本会を訪れ、本会の活動や施設を研修・見学したほか、寄生虫検査の実技実習を行った。

会を訪れ、本会の事業を研修した。国際寄生虫予防指導者セミナーの研修員が本会で研修。日本寄生虫予防会では、国際協力事業団(JICA)から委託を受けて、アジア、アフリカ、中南米からの研修員を受け入れて国際寄生虫予防指導者セミナーを実施している。第26回のセミナーに参加している研修員14人が2月8日、本会を訪れ、本会の活動や施設を研修・見学したほか、寄生虫検査の実技実習を行った。



医療と健康をつなぐ  
テクノロジー

## 学童検診業務の必携システム!



**ECP-4641**

医療用具承認番号:20800BZZ00230000

- 学童省略4誘導、標準12誘導、心音図を自動解析
- 心電・心音図検査を60人以上/時間のスピードで処理
- 不整脈自動延長機能を搭載(学校保健法施行規則に対応)
- 内蔵フロッピー装置、ICカード装置で収録データの再生可能
- 成人病検診にも活用可能

※解析プログラムは学校心臓検診二次検診対象者抽出ガイドラインに対応  
※検診業務に対応する専用パネル採用

●医用電子機器の総合メーカー

**フクダ電子株式会社**

本社 東京都文京区本郷 3-39-4 TEL (03) 3815-2121(代) F113-8483